

JAGCE第5回中国・四国支部大会
広島文教大学第2号館 2階
16:10-16:35

賛助会員として海外留学の効果を考察する

【大会テーマ】
「成長を促す海外留学のスキーム」

2019年10月27日（日）
一般社団法人GLOBAL8

会長 八木 智裕

<http://global8.or.jp>

発表テーマ選定理由

**効果の考察対象と評価に使用した
英語コミュニケーションテストOPIcについて**

海外留学をOPIc評価結果から考察する

海外留学効果を加速するための「つながり」紹介

【大会テーマ】「成長を促す海外留学のスキーム」を賛助会員だから許される？ 考察

賛助会員がより寄り添う支援・「つなぎ」を考える材料提供

- 活発なフィードバック期待

文部科学省グローバル人材の定義

- **要素Ⅰ（語学力・コミュニケーション能力）**
- **要素Ⅱ（主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感）**
『海外留学の客観的効果測定 国際シンポジウム』（広島大学主催）
<https://www.hiroshima-u.ac.jp/sgu/news/53177>
- **要素Ⅲ（異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー）**

■ ACTFL*2ガイドに準拠し、実際のビジネスや生活の場でいかに効果的で適切に言語を使えるかの言語駆使能力を客観的に測定できるテスト

■ LTI監督のもとOPI含め世界120ヶ国以上で、60万人を超える受験者

■ ACE*3単位認証ガイドに準拠し、2,000を超える大学が単位認定に活用中

■ 日本では英語に続き、留学生中心に日本語スピーキングテストを提供

- *1 <http://global8.or.jp/opic.html>
- *2 American Council on the Teaching of Foreign Languages <https://www.actfl.org/>
- *3 American Council on Education <http://www.acenet.edu/Pages/default.aspx>

■ **長期留学では渡航国によって政策的に試験が採用されている傾向があるが米国中心にスピーキング(会話系)重視**

- フ라이어裏面ジョージア大学基準参照

■ **短期・中期の一部含め凡そ8割の海外留学においては英語テストの入学基準が存在しないと思われる。反面評価は**定期的**な理解力系(**L/R**)テスト中心**

■ **仮にプログラム評価向けに(**L/R**)テスト設定しても効果は？**

- 『海外留学の客観的效果測定 国際シンポジウム』（広島大学主催）

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/sgu/news/53177>

（芝浦工業大学発表） https://www.hiroshima-u.ac.jp/system/files/127496/事例紹介%28PROG%29symposium20191004_1.pdf p32

大学生の海外留学事情 | 統計データから読み取る日本人学生の動向

- <https://campus-hub.jp/article923> から

順位	国名	割合(%)
1位	アメリカ	57.1
2位	イギリス	8.9
3位	オーストラリア	5.7
4位	カナダ	4.9
4位	ドイツ	4.9

- 留学の定義かデータの古さかアジア近隣国が無い(或いは差分の18.5%内数？)

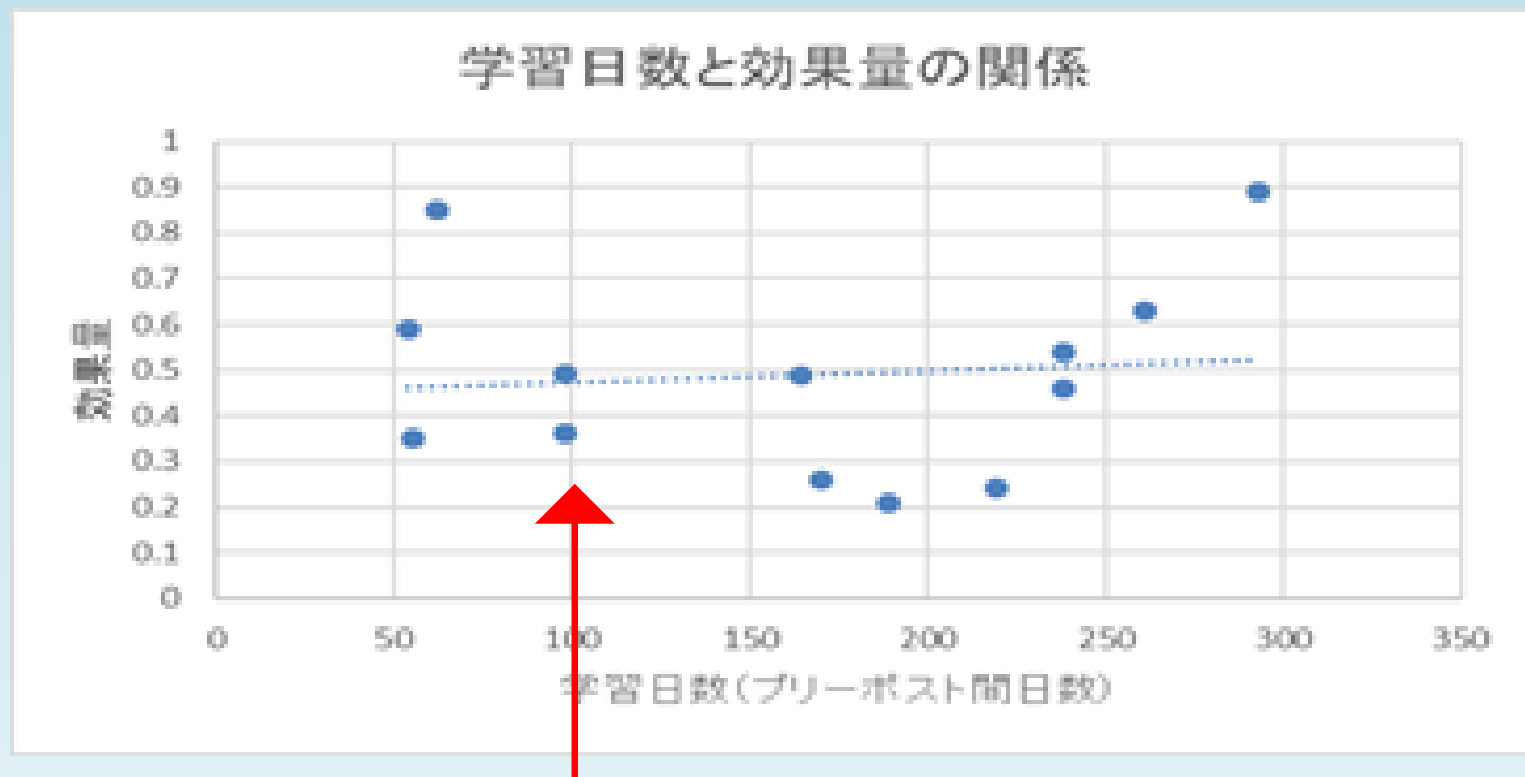
大学生の海外留学事情 | 統計データから読み取る日本人学生の動向

- <https://campus-hub.jp/article923> から

期 間	留学者数	全体比率(%)	前年伸び率(%)
1か月未満	48,853名(前年比+8,326)	60.2	20.5
1か月以上～3か月未満	8,418名(前年比+803)	10.4	10.5
3か月以上～6か月未満	8,670名(前年比+1,345)	10.7	18.4
6か月以上～1年未満	13,198名(前年比+748)	16.2	6.0
1年以上	1,650名(前年比-63)	2.0	-3.7
不明	430名(前年比+191)	0.5	79.9
合 計	81,219名(前年比+11,350)	100	16.2

学習日数と効果量(評価対象の平均向上と偏差変化が因数)の関係

- グローバル人材育成教育学会第5回全国大会でポスター発表
http://global8.or.jp/JAGCE17_poster.pdf から



授業のプリーポスト期間

A校海外短期語学研修('13-'16)

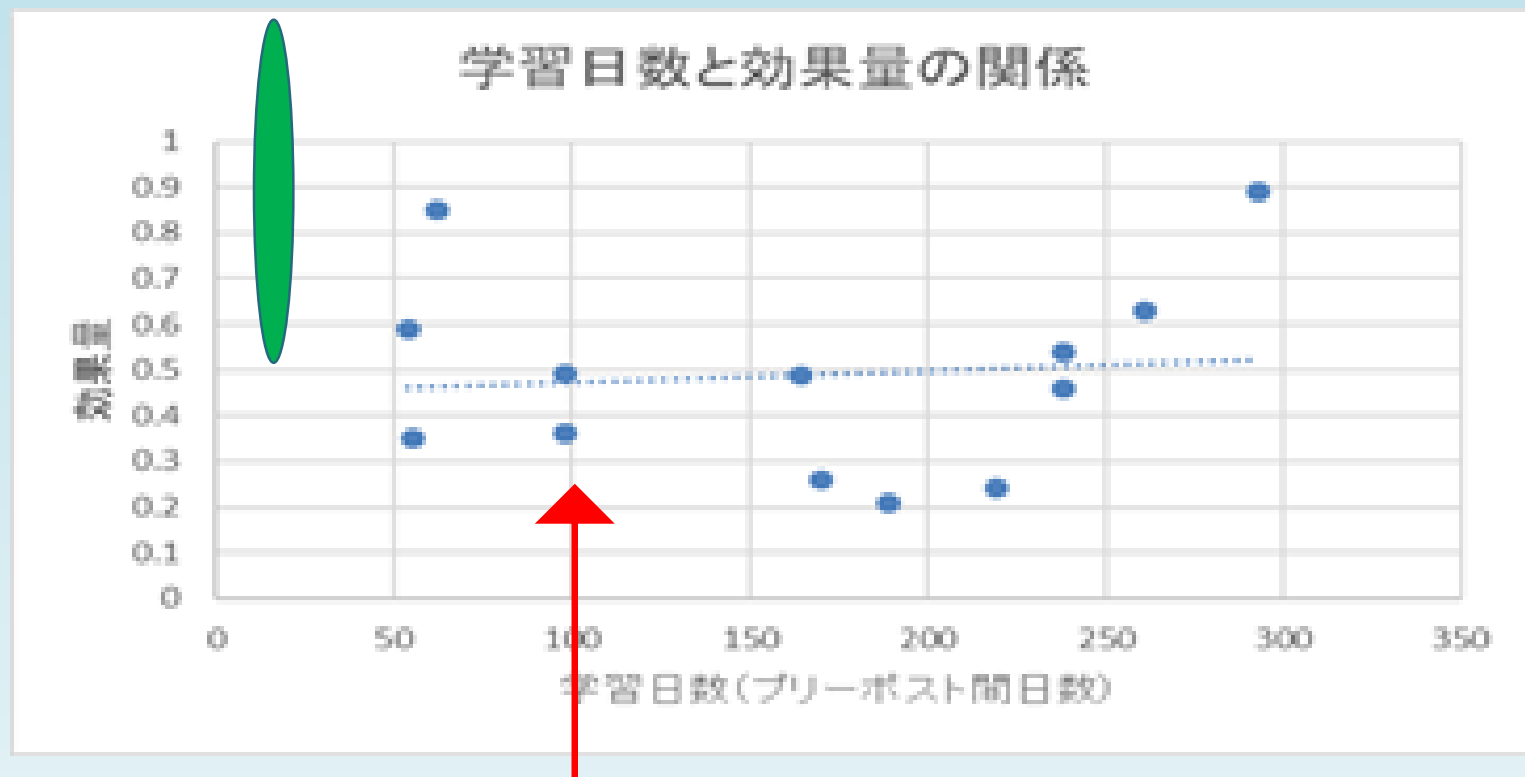
- 留学先での事後評価(効果定着)と帰国後評価(効果剥落)にも注目

	n	プリM	SD	ポストM	SD	効果量	UP/DN率	AL人数	実用比率	到達比率
FY13	10	4.5	1.65	4.4	1.35	-0.06	-10		10	20
FY14	18	3.9	1.23	4.7	1.37	0.63	77.8		11	44.4
NZオンサイト	6	3.3	0.52	4	0.63	1.29	66.7			16.7
FY15	17	3.9	0.7	4.4	0.49	0.67	44.4			35.3
NZオンサイト	5	3.6	0.55	4.4	0.55	1.45	50			40
USAオンサイト	8	4.0	0.93	4.5	0.53	0.54	50			50
FY16	19	3.8	1.08	4.6	0.77	0.74	78.9			53

- 2019/9/22(Sun) グローバル人材育成教育学会第5回北海道支部大会@北海道情報大学
「地域のリソースとしての理工系学生」発表内容参照

学習日数と効果量の関係

- グローバル人材育成教育学会第5回全国大会でポスター発表
http://global8.or.jp/JAGCE17_poster.pdf から



授業のプリーポスト期間

C女子大学短期大学部海外短期語学研修('16)

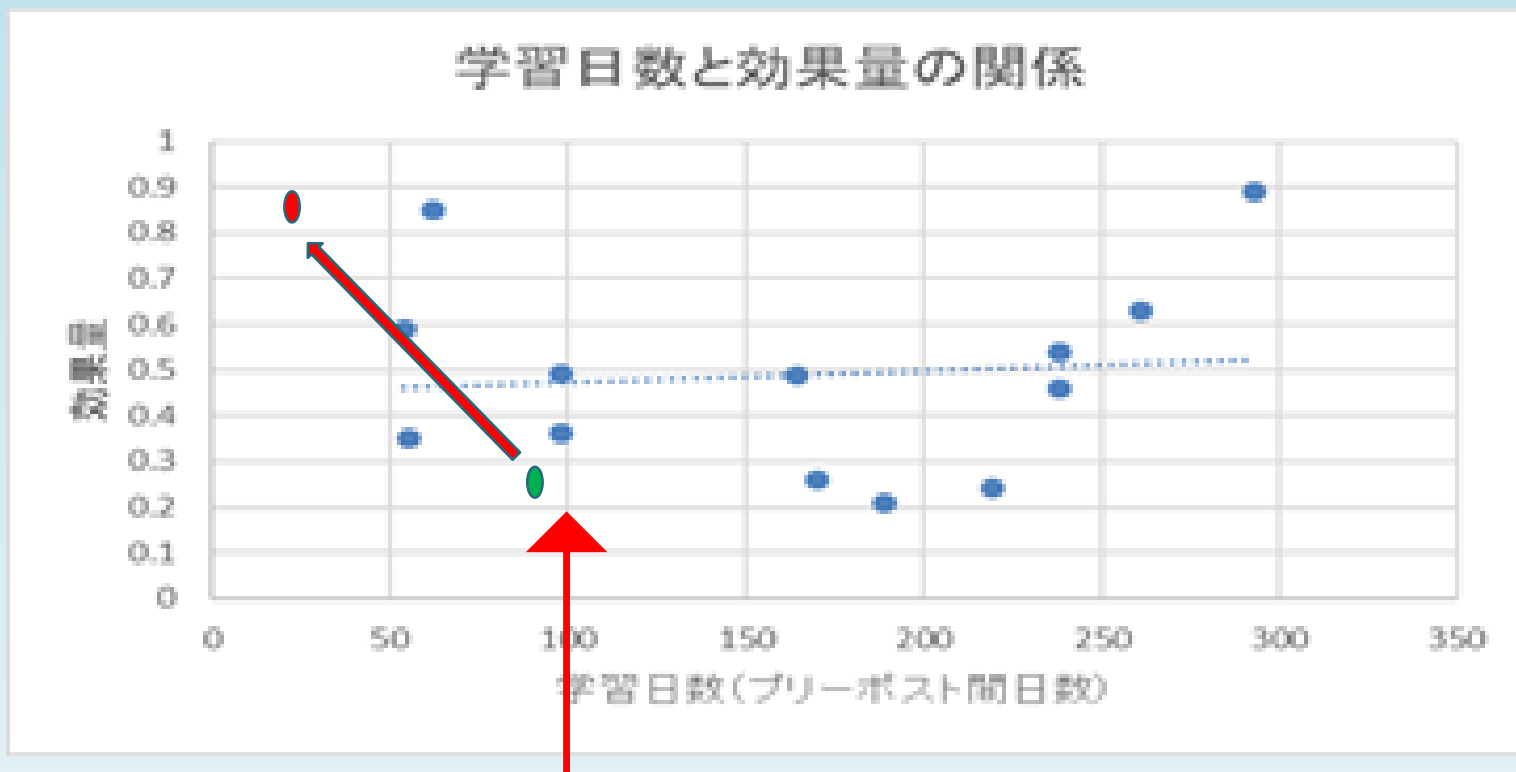
- 同大学におけるスカイプ活用授業(3ヶ月)も一定の効果認められるが短期海外留学は更に顕著な効果が認められる

クラス	n	プリM	SD	ポストM	SD	効果量	UP/DN率
海外短期留学	20	3	0.82	3.7	0.75	0.85	40
教材統制スカイプ ^o	23	3.4	1.08	3.7	0.83	0.28	21.7
一般スカイプ ^o	19	3.1	0.85	3.3	0.82	0.24	26.3

- 集団型短期海外留学の特性か上位の者においては成長は認められなかった
→要素Ⅰ以外の習得活動の指導を行うかクラス編成の配慮も必要か？

学習日数と効果量の関係

- グローバル人材育成教育学会第5回全国大会でポスター発表
http://global8.or.jp/JAGCE17_poster.pdf から



授業のプリーポスト期間

摂南大学海外留学の位置付け遷移

- 希望者語学留学においては半年で一定の効果に達すると考える
- 1年の語学留学は上位を目指すには必要な期間と考えるが事前の評価無しには目標・目的達成設定が困難に見受けられる

クラス	n	プリM	SD	ポストM	SD	効果量	UP/DN率	実用比率	到達比率
半年留学生	5	4.4	0.55	5.2	0.45	1.45	80		100
1年留学生	11			5.1	1.38			9.1	64
新コース準備期間	26	3.6	0.64	4.3	0.62	1.13	73.1		38
新コース留学	13	4.2	0.69	5.2	0.93	1.45	107.7	7.7	92.3

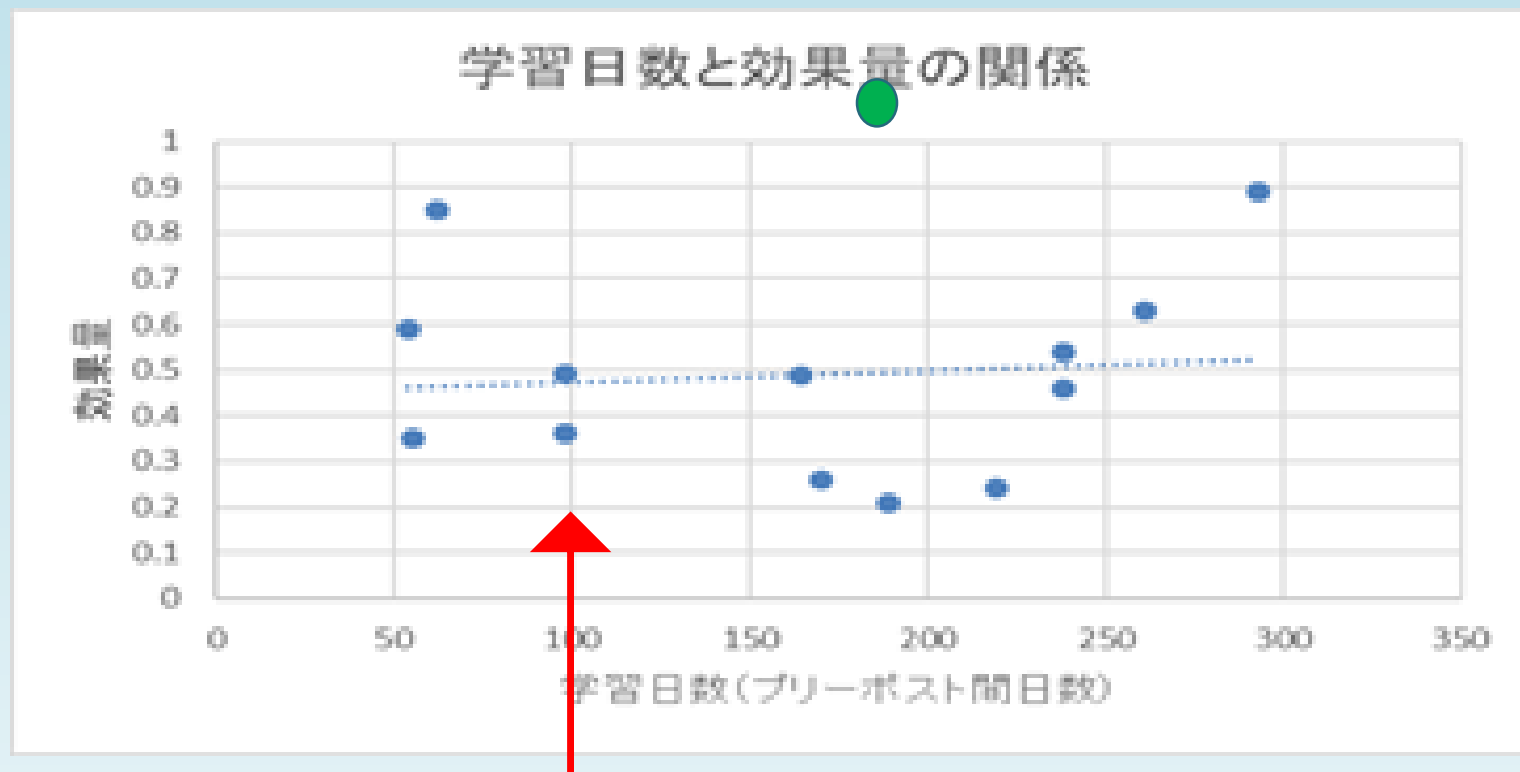
- 全員海外留学コースの設定は大学全入時代に難しい挑戦であるが、であるからこそ適切な時期の評価やリフレクションは重要で、同校の取組は成果を充分上げていると考える

4技能重視の英語教育への転換～新カリキュラム1期生の2年半の経過報告

／松田早恵・鳥居祐介・後藤一章(摂南大学) 尚、以下レポートの留学評価対象者は実施認識の関係で少々異なる http://global8.or.jp/2017JACET_Setsunan.pdf

学習日数と効果量の関係

- グローバル人材育成教育学会第5回全国大会でポスター発表
http://global8.or.jp/JAGCE17_poster.pdf から



授業のプリーポスト期間

■ 原点：EVEサービスを起点に(海外留学でなく短期研修を軸にした学び)の紹介

■ つながり先：企業に対するメッセージ発信

■ 当法人賛助会員と「つながり」を意識した連携

青山学院大学・小張ゼミ：箱根の山場は9月1週間のシンガポールゼミ旅行

- 自身の経験をもとに参加者の英語会話レベルが一定に達しなければ現地受入れスタッフの嫌悪感を招き、1回きりのお客様になる
- EVE(Experience Value Exchange)サービスは価値協創の基盤は要素Ⅰのレベル合せ

5W1H	When	Where	How
繋ぎの要素	継続の力	場所の提供	ノウハウ・費用
学校(学)	◎ (小張先生の思い)		
地域(官)			
企業(産)	○ (就活を無意識のうちにゼミ組込み)	ゼミ生30名APAC 企業訪問受入調整 (9/8)	OPIcを使った 継続評価

- グローバル人材育成教育学会北海道支部第3回北海道支部大会において「時間軸・空間軸を見据えた羅針盤～北海学園での出会いから、現在、そして未来への繋ぎ～」

http://global8.or.jp/JAGCE_Hokkaido3.pdf

6年前の出会い頃のOPIC概況

- 日本英語教育学会第46回年次研究集会・英語スピーキング能力の可視化によるプログラム適用効果の考察 <http://www.decode.waseda.ac.jp/announcement/documents-for-2016-03-12-13/TomohiroYagi.pdf>
- 基板設計が上手く廻り6年連続継続中：今年久しぶりのOPIC評価中

		レベルの変化(試験前からのUP/DN3年・4年・通年)			
		－1	±0	＋1	＋2
試験前の結果レベル	Advanced Low	1人	1人	－	－
	Intermediate High	2人	3人3人2人	2人1人	－
	Intermediate Mid(3)		1人1人1人		
	Intermediate Mid(2)	1人1人	3人1人1人	2人	3人1人2人
	Intermediate Mid(1)			1人	
	Intermediate Low	1人1人	4人3人3人	1人2人2人	1人
	Novice High		1人	2人1人1人	

青学(小張ゼミ)	対象人数	UP/DN	差分	UP率(差分/人数)
3年次	19人	+9/－2	+7	+36.8%
4年次	19人	+8/－4	+4	+21.1%
ゼミ期間	19人	+11/－1	+10	+52.6%

対象人数とUP/DNポイント(変化値*人数)の差分からUP率を算出(算出例:対象者全員が1ポイントUPすると100%となります。)
ゼミ空間は適度な緊張感で脱落者を防ぐものの、海外実社会体験のモチベーションが効くのはIL以上の意欲継続の可能性を感じた者に限られ、通常を越える一気の成長を見せる効果を与えることがある。

●（参考資料）青山学院大学経済学部ゼミ生・APAC訪問研修風景（9／8）と 現地HRフィードバック



- 前半のAPAC・シンガポールの歴史・概要に関しては、特にシンガポールの計画性・実行力の高さに関心が高かったです。
- 続く事業紹介に関しては「NECってそんな事業をやっているのか」とこちらも発見が多かったという印象です。
（安心、安全といったタイムリーなキーワードに合った事例でしたので、アピールとしては良かったと思います。）
- 後半のHRパートに関しては、グローバルで活躍するためには何が必要かというテーマで英語での質疑もあり、就職活動も控えていますからより自分ごととして聞いていたようです。

業務遂行のためにQCD視点からのOPIC評価レベル

- Q:コミュニケーション(スピーキング)は修正能力・最低限の精度保証が求められる
- C:コミュニケーション(スピーキング)は社員のスキルでUP/DOWNが大きい
- D:コミュニケーション(スピーキング)は4技能の中で唯一即時性が求められる

レベル名称	CEFR	今回実証適用値	言語能力	米国での職務ガイド	修得対象	FSI到達ガイド
Advanced Low(AL)	C1:AH, C2:S	B2 9	自分の考えや経験を流暢に表現できる。討論や交渉、説得など実際の業務で駆使することができる。	• Customer Service Agent, Social Worker, Claims Processor, K-12 Language Teacher, Police Officer, Maintenance Administrator, Billing Clerk, Legal Secretary, Legal Receptionist	• Undergraduate language majors with year-long study abroad experience	1320h
Intermediate High(IH)		8	文法的に大きな間違いが無く言語を駆使し、基本的なビジネスや会議でコミュニケーションができる。	• Auto Inspector, Aviation Personnel, Missionary, Tour guide	• Undergraduate language majors without year-long study abroad experience	
Intermediate Mid(IM3~IM1)	B1	7 6 5	小さな文法的ミスはあるものの、長いセンテンスを駆使し、基本的なコミュニケーションができる。 ※IM3(上)、IM2(中)、IM1(下)に細分化	• Cashier, Sales clerk (highly predictable contexts)	• L2learners after 6-8 year sequences of study (AP, etc.) • 4-6 semester college sequence	
Intermediate Low(IL)	A2	4	日常的な話題はセンテンスで話すことができる。会話に参加し、興味のある話題は自信を持って話すことができる。	• Receptionist, Housekeeping Staff	• L2learners after 4 year high school sequence or 2 semester college sequence	480h
Novice High(NH)	A1	3	簡単な単語や句を駆使してコミュニケーションができる。			
Novice Mid(NM)		2	既に暗記している単語やセンテンスで話すことができる。		• L2learners after 2 years of high school language study	
Novice Low(NL)		1	限定的ではあるが、単語を羅列して話すことができる。			

2018/10/17 公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団

- https://www.nakatani-foundation.jp/business/ries_top/

☆2019/1/1 エキサイトT & E株式会社(10/1~社名変更)

- <https://www.studyabroad.co.jp/univ/>

☆2019/1/1 株式会社留学ジャーナル

- <https://www.ryugaku.co.jp/>

プログラム適用の背景

- 提携先学生の来日語学力事前評価OPI→OPICの検討
- 連携による応募学生の拡がりと選抜方法効率化

OPIC適用結果：平均6.0(=IM2), 偏差1.7

- 選抜基準は青山学院大学での経験を基にIL以上を提言
- http://global8.or.jp/NF_Research_Internship.pdf
- 地方並びに女性活躍を考えるデータ

プログラム概要と帰国レポート、来年募集

- https://www.nakatani-foundation.jp/achievements/ries_achievements_list/



提示情報項目	回答情報
大 学 名	鳥取大学
所在都道府県	鳥取県
N F 受験時事前自己評価	I M = 6
N F 受験時O P I c 評価	I M 2 = 6
N F 受験時将来目標	A L = 9
準会員加入動機 ・ O P I c の感想	動機：OPIc を比較的安価で受けられたため。今後の英語学習の指標の一つにしようと考えたため。 感想：これまで受けてきた英語試験のスピーキングと比べ、より実践的・日常的であると感じた。今まで受けてきた英語の試験のスピーキングの中でも、より日常的であり、試験自体に楽しさが感じられた。
会員初年度O P I c 評価	I M 1 = 5
上記期間における 主な学習方法	主に日本英語検定の2次(スピーキング)・TOEFL iBT のスピーキングの練習・模試
レベル変化に対する 自己分析	レベル低下の原因を、試験自体への対策不足が起因していたと考えた。よくも悪くも、試験に対しての緊張感が低下していたため。 （2回目は財団留学がかかっていない、自己啓発が目的であったこと）

提示情報項目	回答情報
目標達成に向けての 当面の学習方案	英語学習全般については、今後も、アウトプットを中心に心がけたい。 OPIc に関しては、より説明に力を入れられるよう、語彙力や言い回しの引き出しを増やしたい。また、話し言葉の文法が得意ではないため、そのあたりも改善したい。
理系としてICTや CBT活用による地方の ハンディ克服や世界との 「つながり」について	ICT, IBT による試験は地方の大学生からすると金銭的・時間的負担が少なく、非常にやりやすかった。(TOEFL 等は都市圏でしか行われていないため) このような試験の認知度が高まると、自己啓発の機会が増えると感じた。 また、この試験の結果をもとに、モチベーションの高い世界中の学生とつながれるコミュニティが存在すれば、より切磋琢磨できる機会が増えるのではないかと考えた。
その他・自由記述	OPIc は、比較的安価で iBT でできるテストとしては非常に質の高いものであると感じた。一方で、日本国内での知名度の低さ・並びに活用例が少ないと思った。ここのあたりの知名度の低さを改善すれば、TOEIC (S/W) のような試験と同様に市民権を得られるであろうと期待している。

■ 公立大学から初の選抜（事前OPIC評価：IM1）

（帰国後翌日の感想提供に新たな「つながり」を予感）

- 送信日時: 2019年9月20日 16:11
- 件名: Re: グローバル人材育成教育学会第5回北海道支部大会一般演題採択

昨夜、無事に日本に帰国しました。

今回のリサーチインターンシップに参加して将来の選択肢が広がったように思います。

語学に関してはまだまだで、悔しい思いをすることの方が多かったです。

ハイデルベルク大学周辺の若者は誰に話しかけても流暢に英語を話しており、日本との差を感じました。

OPICなどのスピーキングに特化した語学試験を取り入れることは、国際的に活躍するために必須だと改めて思いました。

Global8:先ずは「東京留学ジャーナルカウンセリングセンター(信濃町)」を個人受験希望者に受験会場として提供

留学ジャーナル:企業向け海外留学研修の目的明確化や効果検証で活用開始

- 通常の評価・Certificate発行に加え東京大学M-Skype(COIL)強化で実施したプレミアムレポート評価を依頼し、学習者並びに留学先の意識を合わせるサービス提供

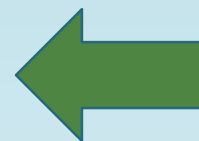
→ https://www.ryugaku.co.jp/corporate/column/column_023271.html

株式会社留学ジャーナルと「つながり」を意識した連携の評価レポート（参考）

企 業 名	株式会社電業社機械製作所
業 種 分 類	製造業
職 種 分 類	資材調達業務
所在都道府県	東京都
留学前受験時事前自己評価	旅行の際レストランなどで注文可能
留学前受験時O P I c 評価	Novice High(レベル3)
将来目標	仕事上で海外企業との交渉可能
留学後受験時O P I c 評価	Intermediate Mid(レベル6)
上記期間における 主な留学学習内容	語学学校で、基礎クラス、文法クラス、会話 クラス、語彙クラス、ビジネスクラス、発音 クラス の受講。+英語で日記をつけてい た。
レベル変化に対する 自己分析	以前は英語を避けていたが、もっと英語を 話したいという意欲が湧くようになった。
留学前O P I c 受験の意義	留学中は自分がレベルアップしているかど うかの実感を持てないため、留学前の自分 のレベルを測っておくことで、帰国後に自 己のレベルアップを確認できてよい。自信 に繋がる。
その他・自由記述	出題のトピックを選べるため、もともとア イデアのない質問に答える必要がなく、“英 語力” のみにフォーカスされている点が良い。

株式会社留学ジャーナルと「つながり」を意識した連携の評価レポート（参考）

企 業 名	株式会社電業社機械製作所
業 種 分 類	製造業
職 種 分 類	資材調達業務
所在都道府県	東京都
留学前受験時事前自己評価	旅行の際レストランなどで注文可能
留学前受験時O P I c 評価	Novice High(レベル3)
将来目標	仕事上で海外企業との交渉可能
留学後受験時O P I c 評価	Intermediate Mid (レベル6)
上記期間における 主な留学学習内容	語学学校で、基礎クラス、文法クラス、会話 クラス、語彙クラス、ビジネスクラス、発音 クラスの受講。+英語で日記をつけていた。
レベル変化に対する 自己分析	以前は英語を避けていたが、もっと英語を 話したいという意欲が湧くようになった。
留学前O P I c 受験の意義	留学中は自分がレベルアップしているかど うかの実感を持てないため、留学前の自分 のレベルを測っておくことで、帰国後に自 己のレベルアップを確認できてよい。自信 に繋がる。
その他・自由記述	出題のトピックを選べるため、もともとア イデアのない質問に答える必要がなく、“英 語力”のみにフォーカスされている点が良い。



留学ジャーナル追加情報項目	回 答
留学渡航先	カナダ ILSCトロント校
留学期間	3ヶ月
今回企画全般でのコメント	中級以上のレベルに上が ると多様な選択科目を取 れるのが特徴のプログラ ム。 特にビジネス英語クラス を受講したことが、本人 にとって英語力UPに大きく 繋がったよう。



時間軸と空間軸を見据えたつながり
Global8 → ∞